明治１４年（１８８１）２月、檜山爾志郡役所（江差）の職員清水三四郎（鹿児島県人）が郡役所の訴訟用罫紙が不足したため、函館支庁へ向かい雪をついて２０里(約８０キロメートル)を２４時間で踏破し、罫紙８００葉を受け取り直ぐ引き返した。

猛吹雪となり止む無く二股岳下の旅館に宿泊した。翌朝天候は止まないものの「役所にすまぬ」と、旅館主の止めるのも振り切って出かけ、ついに帰らぬ人となった。その直後と雪解け後に捜索したが見つからなかった。

同１９年に函館支庁長時任為基が山道工事を視察した際、この話を聞き招魂の碑を建て、その霊を慰めている。

江差の人　中山で遭難

清水三四郎

大野文保研追悼会

「清水三四郎之墓碑」

碑を中央に右に説明板、

左に漢文板

大野文化財保護研究会（文保研）　　２０１１、９、２６